



リファイン大分の情報まんさい新聞

2021年

リファイン新聞

1月
第42号

リファイン新聞 第42号

発行日: 2021年1月1日(金)

発行元: ロイヤルクリーナー株式会社リファイン大分

住所: 大分県豊後大野市犬飼町下津尾 10 番地

TEL 097-579-7455 (受付時間 8:15~17:30)

FAX 097-579-7454

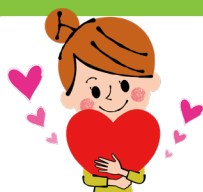
HP <http://refineoita.com>

リファイン大分の各部署をご紹介します!

布団事業部チーム

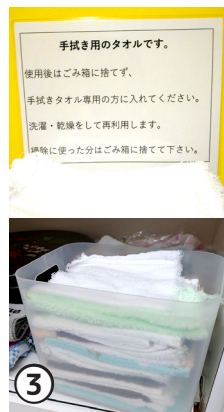
チームリーダー(課長)
安部公俊

私たちは、お客様からお預かりしたお布団を洗って乾燥をしています。介護施設や福祉施設の私物洗濯も行い、レンタル布団の準備などもしています。私たちの仕事は洗いと乾燥ですが、お客様に届くまでには、たたみチーム、配送チームと各チームとの連携は不可欠ですので、チームワークを大切にしています。皆様が毎日お使いになるお布団。洗濯に出されたお客様の中には、「キレイになって良かった!」との声もいただきます。ぜひ1度、お試しになっていただきたいです!



今月のありがとう

11月に弊社の月例会で発表した『今月のありがとう』をご紹介します♪



①機械に浴衣サイズを表示することで作業がよりやりやすくなりました。②第2工場で使用する作業台を作成してもらい作業効率が上がりました。③タオルの再利用を始めて半年経ちました。掃除用、トイレ用でかなりの節約になっています。④第2工場の2階にある布団を整理整頓して、台車が通りやすくなりました。みなさんに感謝です! ありがとうございます!

未来に
向けて

2021 年のテーマは『もったいない』です



社長のノート

12月16日に大分県中小企業家同友会の広報委員会主催の懇親会に参加しました。懇親会の前に大分県商工観光労働部の高濱部長による講演が行われ、講演のテーマは「宇宙港と今後の大分県の明るい未来について」でした。大分県が米国の宇宙開発企業「Virgin Orbit」と提携し、2022年にはアジア初の宇宙空港として大分空港から人工衛星が打ち上げられる話や、提携の経緯、今後の展望が語られました。大分空港が宇宙港に選ばれた理由のひとつは観光があること。大分県としては宇宙港開港に向けて、観光の強化や宇宙に関する教育を強化させるとのこと。私たちは観光を下支えする会社



としてますます頑張らなければと思いました。高濱部長からはSDGsの話もあって、これから見るべき方向は世界であり、環境問題やSDGsを意識したビジネス



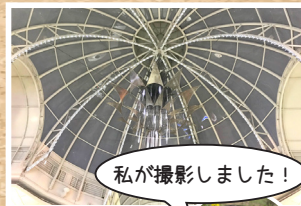
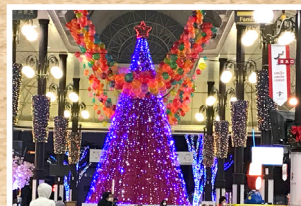
代表取締役社長
宮迫賢太郎

が求められていることが分かりました。

そんな世界の動きを見据えて、2021年のテーマは昨年に引き続き「もったいない」にしました。この言葉を選んだ理由は2つありまして、ひとつは無駄なモノを省き、会社の体質強化することです。もうひとつはモノを大事にすることで少しでも環境保全に寄与することです。新年となってもまだコロナ終息のめどは立っていませんが、未来に向けて今できることを確実にやり、前に進んでいきたいと思います。



社長の思い出写真集 商店街編



私が撮影しました！

少しでも飲食業の方のお力になればと『おおい味力食うばん券』を買って大分市竹町商店街へ。家族で食事をしてイルミネーションを楽しみました。



総務部のツイッター

で日々の取り組みつぶやき中！

ツイッターにログインして、ぜひアカウントをフォローしてください！

@refineoitasoumu



夜神楽に商工会青年部で出店

@refineoitasoumu 11月1日

昨日は豊後大野市清川町の夜神楽にて、商工会青年部のみんなで餃子の出店をしてきました！見事完売しましたー！



お布団の丸洗い作業

@refineoitasoumu 11月19日

お布団の丸洗い作業をご紹介します。洗剤をつけて、汚れた部分を刷毛で集中的に洗います。



自販機キャンペーン

@refineoitasoumu 11月27日

社内に置いてある自販機でキャンペーンが始まって約1週間ほど。なか中当たりが出ない中、今日A賞が出ました!! ハーゲンダッツのギフト券!! これは邪念を捨てて買おう! そしたら当たるかも。



代表取締役会長
宮迫忠三

Kaicyo History

会長が歩んだ道 vol.34

助言に感謝! 残った杉の木 編

前は、2008年2月に当社工場が全焼しましたが、1ヶ月で仮設工場が完成したお話をしました。1ヶ月で完成した背景には、燃えなかった杉の木が大きく関係しています。火事になる前に、いつもお世話になっているある会社の社長さんが当社の工場見学に来た時、「この場所は枯葉が落ちてくるかもしれないから、ここに屋根を作りなさい!」と助言をしてくれました。それから、すぐに工務店に手配をしたところ、ちょうど立派な杉の

木があったので、80坪の屋根を作りました。それから工場は火事になりましたが、屋根の柱はびくともせずに残っていました。その屋根を活用することができたので仮設工場を1ヶ月で完成させることができました。あの時に助言をしてくれた社長さんに感謝です。

そして、仮設工場は完成したとはいえ、屋根と柱のみで壁はなく壁代わりにブルーシートをはっているだけの状態でした。暖房や冷房のない中で、一生懸命に頑張ってくれた、スタッフのみなさんに感謝です。多くの方に支えられ助けられ今があります。(次回に続く)

